

平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284034

研究課題名(和文)戦後日本映画における国際的流通、受容、研究動向に関する調査分析

研究課題名(英文)The international distribution, reception and research of Japanese cinema after 1945

研究代表者

DOMENIG Roland (Roland, Domenig)

明治学院大学・文学部・准教授

研究者番号：20711930

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、世界的に再評価が進められている戦後日本映画における国際的な流過程を調査し、上映形態、批評、観客の反応など受容全般の資料を収集、分析するとともに、同時代から近年までの研究動向を理論的、歴史的に検証することで、その全体像を把握することを目的とした。西欧、北米のみならず、東欧、東アジアでも研究調査を行うとともに、各地で関連のワークショップ、講演会を開催した。また国内では、2016年度に『遠くからの観察者からー海外における日本映画研究の変遷』、2017年度に北米の映画学会 Kinema Clubとの共同で『Japanese Film Studies “Abroad”』を開催した。

研究成果の概要(英文)：This study surveys the distribution of postwar Japanese cinema overseas and the international appraisal and reappraisal of Japanese filmmakers. We examined from a film-historical perspective the different distribution and reception contexts of Japanese cinema as well as the critical appraisal of Japanese films and filmmakers, and analyzed the scholarly and critical research of Japanese cinema outside of Japan and its importance for the field of Film Studies. Besides surveying the history of Japanese cinema in Western Europe and North America we extended our survey also to countries in Eastern Europe and East Asia. We cooperated with local scholars and curators and organized and conducted related workshops, lectures and events. In addition, in Japan we organized the conference “From the Distant Observer: Japanese Film Studies Abroad” in November 2016 and the 17th Kinema Club conference “Japanese Film Studies <Abroad>” in February 2018.

研究分野：人文学

キーワード：日本映画史 映画研究 日本文化史

### 1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、戦後日本映画に対する研究が世界的に盛んになっている。1950年代後半から始まる松竹ヌーヴェルヴァーグの大島渚、篠田正浩、吉田喜重を中心に、ドキュメンタリー映画の松本俊夫や羽仁進、ピンク映画の若松孝二、更にそうした作家の先駆である市川崑、増村保造、新藤兼人、今村昌平、鈴木清順らに対する注目の高まりのなかで、関連の研究、学会、出版が行なわれ、国際映画祭やシネマテークでの特集上映も相次いでいた。また、既に歴史的評価を獲得している黒澤明、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男といった日本映画の巨匠をめぐっても、それぞれに生誕100年という節目を迎え、文字通り世界各地で関連行事、出版が続いた。戦後日本映画への国際的な関心は、黒澤明『羅生門』(51)のヴェネツィア国際映画祭グランプリに端を発し、溝口健二が同映画祭で三年連続受賞したことで、その世界的評価が定着し、60年代から70年代半ばにかけては、独立プロダクション系のニューウェーブがその評価に取って代わった。ただし、日本映画への同時代的な関心は、ハリウッドやヨーロッパ映画中心主義に対するオルタナティブとして位置づけられる傾向が強く、その対象が古典的な作家からニューウェーブに移行しても、日本の政治・社会・文化的な側面を軽視するという根本的な問題を孕んだままであった。

そうした従来の動向に対して、日本語に精通している研究者を中心に、歴史的な経緯を踏まえつつ先行研究を批判的に継承する国際的な新しい潮流が生まれて来た。英語や仏語資料のみが参照されていた従来と比して、その研究対象は飛躍的に広がり、トランスナショナルな共同研究が発展する一方、最も研究が盛んな北米であっても日本国内の豊かな研究や資料が共有されているとは言い難く、各地域における固有の政治的、歴史的な受容の背景が議論されることは稀である。更に、欧米で進んでいる理論的研究が日本に紹介されていないといった不均衡な状況も解消されていないままであった。

### 2. 研究の目的

本研究は、世界的に再評価が進められている戦後日本映画(黒澤明、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男、市川崑、今村昌平、大島渚、吉田喜重、篠田正浩、羽仁進、松本俊夫、若松孝二、足立正生など)における国際的な流通過程を調査し、上映形態、批評、観客の反応など受容全般の資料を収集、分析するとともに、同時代から近年までの研究動向を理論的、歴史的に検証することで、その全体像を把握することを目的とした。また、収集した資料から包括的なリスト・データベースを作成し、重要な基礎文献を相互に翻訳刊行することで、日本映画をめぐる幅広い国際的議論が可能となる学術的基盤作りを目指した。

### 3. 研究の方法

戦後日本映画における国際的流通、受容、研究動向について検証するため、代表者、研究分担者が、日本のみならず、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、ドイツ、オーストリア、オランダ、ポーランド、クロアチア、スロベニア、韓国などに滞在し、資料の収集調査と研究の理論的、歴史的な分析をするとともに、批評家、研究者、映画監督、プログラマー、アーキビストなどへの聞き取りを行った。こうした研究の成果を国内外での国際シンポジウム、ワークショップ、講演会の開催、および論文、リスト作成、データベース化、海外文献の編纂、日本語文献の翻訳などの出版物によって発表する。

### 4. 研究成果

戦後日本映画における国際的流通、受容、研究動向について検証するため、代表者、研究分担者が、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、ドイツ、オーストリア、オランダ、ポーランド、クロアチア、スロベニア、韓国などに滞在し、資料の収集調査と研究の理論的、歴史的な分析をするとともに、批評家、研究者、映画監督、プログラマーなどへの聞き取りを行い、国際的なネットワークの構築につとめた。こうした共同研究の成果を、世界各地でのシンポジウム、ワークショップ、講演会などで報告した。国内では2017年度に、アメリカ、フランス、ドイツ、オーストリアの批評家、研究者を招待して、戦後における日本映画の海外上映や受容を検証する国際シンポジウム『遠くからの観察者からー海外における日本映画研究の変遷』(明治学院大学)、2018年度に、北米の映画学会 Kinema Club との共同で、海外における日本映画研究を主題とした『Japanese Film Studies "Abroad"』(明治学院大学)を開催し、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、中国、台湾の研究者を招き、国際的な議論の基盤作りに寄与した。またこうした国内外での発表を、日本語、および英語などの論文、書籍によって報告した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

Go HIRASAWA, "ATG's Early Year and Underground Cinema", *Art Criticism in Taiwan*, Vol.73, 2018, P77-91、(査読あり)

ローランド・ドメーニグ「映画館と都市空間の相互関係：アートシアター新宿文化を事例に」『新領域・次世代の日本研究 海外シンポジウム2014』、2016年、P-35-46、(査読あり)

斉藤綾子「女性映画がといかけるもの」『応

用倫理』北海道大学大学院文学研究科、2014年、P16-23 (査読あり)

〔学会発表〕(計 18 件)

Roland DOMENIG, “ Joseph L. Anderson and the genesis of The Japanese Film: Art and Industry ” KINEMA CLUB XVII: Japanese Film Studies "Abroad", 明治学院大学 (東京都港区) 2018年2月21日

斉藤綾子 『田中絹代はいかに女性性を演出したか』 『あいち国際女性映画祭』 (愛知県海部郡) 2017年9月10日

Go HIRASAWA, “ History of Japanese Radical Cinema ”, 1968 in Japanese Cinema, Guanajuato International Film Festival (Guanajuato, Mexico), 2017年7月27日

ローランド・ドメーニグ 『新宿文化&新宿の文化』 『映画が娯楽の王様だったころ』 明治大学 (東京都区) 2017年6月16日

Go HIRASAWA, “ History and Politics of Japanese Expanded Cinema in the 1960s-70s ”, 1960s Japanese Expanded Cinema, New York University (New York, USA), 2017年3月10日

Go HIRASAWA, “ New Directions in Research and Program on Japanese Experimental and Independent Film ”, Shifting Materialities of Film: Projection, Preservation, and Research, Harvard Film Archive and Harvard University (Cambridge, USA), 2017年3月4日

ローランド・ドメーニグ 『日本・映画とウィーン』 『ウィーン万華鏡』 明治大学 (東京都区) 2016年11月10日

Ayako SAITO 『マリアと満州男 政治の記憶と記憶の政治』 Comparative Postwars: Japan, Germany, and Elsewhere, Columbia University (New York, USA), 2016年10月21日

Go HIRASAWA, “ Theorie du Paysage et Cinéma Radical ”, Japon dans les Années 1960, Maison de la Culture du Japon, Institut National des Langues et Civilisations Orientales and Le BAL (Paris, France), 2016年11月5日

Roland DOMENIG, “ The Underground Theatre Scorpio as catalyst of Japanese counterculture in the late 1960s ”, Cultural Typhoon in Europe "Places and Spaces of Cultural Production in East

Asia", University of Vienna, (Vienna, Austria), 2016年09月22日

Go HIRASAWA, “ New Directions in Research on Japanese Film: Examples from the Practices of Excavation, Restoration, Archiving and Screening ”, Redefining Access: Japanese Materials, the Archive and Research in the New Media Ecology, Harvard University (Cambridge, USA), 2015年9月5日

Roland DOMENIG, “ On NDU's Asia is One ”, AAS-in-ASIA Conference, 同志社大学 (京都府・京都市) 2016年06月24日

Ayako SAITO, “ The Power of Narrating and the Politics of Listening ”, IICS-Visual Studies Program Conference, Visual Culture and Social Mediation in East Asia, (新竹、台湾) 2015年11月1日

平澤剛 『戦後の日本映画』 『光復70周年連続映画講演会』 歴史問題研究会 (ソウル、韓国) 2015年9月16日

Roland DOMENIG, “ About the demise of movie theaters in Japan ”, Kinema Club Conference for Film and Moving Images from Japan XV ) , University of Frankfurt (Frankfurt, Germany), 2015年6月5日

Roland DOMENIG, “ Das A und O des Films-Anmerkungen zur Filmgeschichte in Japan ”, Arbeitskreis japanischer Film der Gegenwart, ドイツ東洋文化協会 (東京都港区) 2015年04月17日

Go HIRASAWA, “ From Landscape Theory to Media Theory: Metamorphosis of Cinema and Revolutionary Theory in the Early 70s Japan ”, University of California, Berkeley (San Francisco, USA) 2015年2月9日

Go HIRASAWA, “ AKA: Serial Killer and Landscape Theory (Fukerion) ”, Film, Landscape and Politics, London University, Goldsmiths (London, UK), 2014年5月31日

〔図書〕(計 4 件)

Roland DOMENIG, Go HIRASAWA and Julian ROSS, *The Rise of Independent Cinema in Japan: A History of the Art Theatre Guild*, I. B. Tauris, 2018 (予定)

斉藤綾子、竹沢泰子 『可視性と不可視性のはざままで 人種神話を解体する 1』 東京大学出版会、2016年

Roland DOMENIG, Ed., Abe Mark NORNES,  
*The Pink Book, The Japanese Eroductio and  
its Contexts*, Kinema Club, 2014, P443  
(17-48)

Roland DOMENIG, Ed., LEE J. Y. and  
Julian STRINGER, *Japanese Cinema Vol. II:  
Post-1945 - Authorship and Genre (Critical  
Concepts in Media and Cultural  
Studies)*, Routledge, 2014, P445 (66-78)

#### 6 . 研究組織

##### (1)研究代表者

DOMENIG Roland (Roland, Domenig)

明治学院大学・文学部・教授

研究者番号：20711930

##### (2)研究分担者

斉藤綾子 (SAITO, Ayako)

明治学院大学・文学部・教授

研究者番号：00573792

##### 研究分担者

平澤剛 (HIRASAWA, Go)

明治学院大学・文学部・研究員

研究者番号：00573792